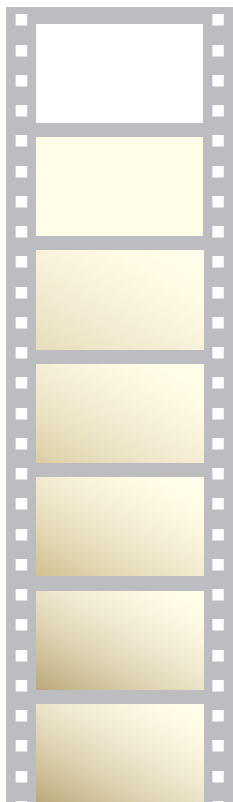
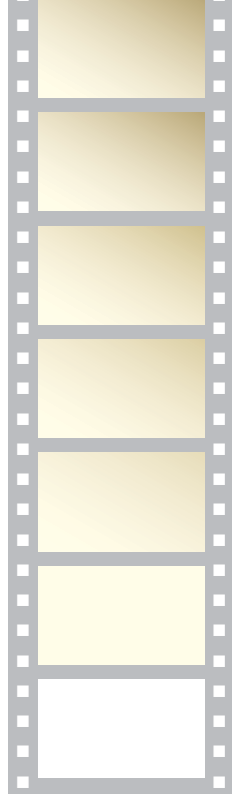


伸^ノさんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第二十八回 『『アベ』って誰?』

「もしも、名古屋の公立高校から仙台の公立高校への転入試験が不合格だったら…」と、今考えると背筋が寒くなる思いがしますが、努力のかいがあり、合格することが出来ました。

東北地区の夏休みは、東海地区よりも一週間ほど短く、慌ただしく引越しの準備が行われました。

しかし、運送会社の都合もあり、荷物の到着日と、二学期の始業式の日が同じ日になってしまったのです。

前日、転入試験でお世話になったT旅館に宿泊し、ここから学校までの道のりは経験がありますが、これから住む住宅と学校の道のりは、父からもらった略図と住所しかないため、担任のA先生に相談しました。

すると、A先生はクラスの全員に聞いたのです。

「転校生の鈴木君の住所は金剛院了だけど、この近くに住んでいる人いるべか？」
クラスの一人が、

「オラの家の近くだ。オラ、案内してやる」と言ってくれました。

A先生は、

「へバ、たのむじゃ。鈴木君のうち、きょう引つ越しで、帰る家、わからねえんだと！」

会話はこれで終わりましたが、A先生の説明を聞いて、クラス中、大笑いとなりました。ぼくは、この笑いで、クラスの仲間に入れてもらった気持ちがありました。

しかし、生徒と先生のフランス語とドイツ語が交じり、なまっているような言葉が「仙台弁」だとわかつたのは、もつとあとのことでした。

まだ見ぬ引つ越し先の住宅へ案内してくれたのはA君でした。

授業が終わり、A君はぼくの席へやつて来て「サアー！アベ」と言つたのです。ぼくの名前は「アベ」ではなく「スズキ」なのに、なぜ彼はぼくのことを「アベ」

と言うのだろうとしばらく考え込んでしまいました。マア、住所と略図は渡してあるので、目的地はわかっている。だからこの際、「アベ」でも「スズキ」でもいいと思ひ、

「ハイ、お願いします」と言つてA君のあとをついて行きました。

当時、仙台市内は市電が走つていて、徒歩の時間と合わせて、通学時間は30分位でした。その間、A君は学校のことなど話してくれましたが、仙台弁のため単語がわからず、通訳がいないとぼくには理解できませんでした。

しかし、毎朝、市電の乗り場で出会い、コミュニケーションをとることにより、スピーキング（話すこと）は出来なくても、ヒアリング（聞くこと）は理解出来るようになりました。

そして、ずっと「謎」だった「アベ」という言葉は、人名ではなく「一緒に行く」という意味だということが言葉のニュアンスと身体のアクションでわかったのです。

そういえば、名古屋へ転校した時、人を呼ぶのに「ヨーヨーヨー」と呼ばれたことがありました。「ヨーヨーヨー」とはいつたい何だったんでしょう？

ビートルズ映画のタイトル「ヤア！ヤア！ヤア！」と関係あるのでしょうか？

〈続〉

伸

平成23年9月